

# 宮ノ陣ビオトープ新聞

第 10 号

(2023年 3月)

宮ノ陣学びのビオトープ

2016年 9月創刊 不定期発行

発行

くるめハイトラスト株式会社

久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地

〒839-0805 TEL0942-27-7515

協力 株式会社エコプラン研究所

宮ノ陣学びのビオトープから生き物や季節の情報をお伝えし、豊かな久留米市の将来へのライフスタイルを提案する新聞。

生物のすみかはあっても、その生息を阻害するものがあります。その一つが外来生物です。水辺で厄介な外来生物は、アメリカザリガニ、オオクチバス(通称ブラックバス)、アカミミガメなどですが、ビオトープには幸いにも生息していません。しかし、オオカナダモという淡水性の沈水植物が繁殖しています。無機養分を吸収し、オオカナダモを食する生物もいないため、拡大繁殖することで日照が水底に届かず、水質が嫌気性になるなど、悪影響をもたらすとされています。池干しの大きな目的は、オオカナダモの駆除です。

表 池干しで確認した主な生物

分類	種名	数量					備考
		第五回 (2023.2)	第四回 (2022.2)	第三回 (2021.1)	第二回 (2019.12)	第一回 (2018.12)	
魚	ツチフキ	58	34	94	約30	約40	準絶滅危惧(福岡県)、絶滅危惧IB類(環境省)
	モツゴ	約300	約100	183	約100	約60	
	ミナミメダカ	687	約100	210	500以上	500以上	準絶滅危惧(福岡県)、絶滅危惧II類(環境省)
	ヒメダカ	-	-	2	-	-	品種改良による観賞魚
底生動物	ミナミヌマエビ	数えきれないくらい多数	数えきれないくらい多数	数えきれないくらい多数	数えきれないくらい多数	1,000以上	
	ヤゴ(クロスジギンヤンマ)	-	3	-	約10	-	今回は確認できなかったが、生息環境に大きな変化はないため、しばらく様子を見てみる
	ヤゴ(ギンヤンマ)	-	1	7	-	約10	
	ヤゴ(オオヤマトンボ)	5	-	-	-	2	
	ヤゴ(シオカラトンボ)	59	15	10	-	約20	
	ヤゴ(イトトンボ科)	1	1	-	-	-	
	コガタノゲンゴロウ	-	100以上	110	約50	約50	絶滅危惧II類(福岡県)、絶滅危惧II類(環境省)
	ウスイロシマゲンゴロウ	1	2	10	5	5	準絶滅危惧(福岡県)
	ヒメゲンゴロウ	-	1	-	-	-	
	ヒメミズカマキリ	-	-	-	2	約10	
	ミスカマキリ	1	-	1	-	-	準絶滅危惧(福岡県)
	ヒメガムシ	-	4	10	約10	約20	
	キイロヒラタガムシ	-	2	-	-	-	
	カワニナ	112	50以上	107	約30	-	
シジミ属	1	1	-	-	-		
カエル	ヌマガエル	-	1	1	-	-	
備考	外来生物は オオカナダモ(水草)、ハフタエモノアラガイ(貝)						

## 池干しの成果が現れ始めた！

宮ノ陣学びのビオトープでは、池内に生息できる生き物がくらす環境を整えるために、様々なテーマで学習や実践活動を行っています。その一つとして、ビオトープの池の水を抜いて、生態系の保全や水質を改善するための「池干し」を二〇一八年から行っており、五回目になる池干しを二〇二三年二月に行いました。新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、今回も非公開で実施しました。



池の水を抜いて生物を救出する様子



捕獲した生物種を確認する様子

都市の開発がなかった頃の日本は、大雨が降って河川が氾濫して洪水が起こると、凸凹の土地の低い場所に水溜まりができ、さらに水が増えると池ができていました。池は農業用水や生活用水として活用されてきました。さらに生き物のすみかにもなっていました。人口が増え、住宅地の開発が増えたり、洪水が起こらないように堤防を造ったりするようになり、池もどんどん減っていきました。残された池の用途は変化し、釣りをしたり、ボートに乗れたり、公園の自然景観の一つとなったり、レジャーとして活用されるようになりました。池の減少と用途の変化により、気づかないところで、野生生物のすみかも少なくなっていました。

このような背景で、宮ノ陣学びのビオトープ(以下、ビオトープ)は、私たちの憩いの場、学習の場としてだけでなく、野生生物の大切なすみかとなっているのです。

# みやのじんビオトープこども新聞

みやのじんビオトープは、水、土、緑などいろいろな環境に生きものがくらせるようになるためにつくられ、人が生きものについて学ぶばしょです。この「みやのじんビオトープこども新聞」は生きものやきせつのこと、イベントや学習会のことなどをお伝えします。

## みやのじんビオトープの池ぼして たくさんのおいきものがいたよ！

みやのじんビオトープの池の水をぬいて、くらしている生きもののおしゅりや数を調べました。池の中には、魚だけではなく、虫の仲間もたくさんすむことができます。昨年のおしらべで数が少なくなって心配した魚のミナミメダカ、ツチフキ、モツゴは増えていました。しかし、たくさんいたコガタノゲンゴロウは、今回の調査では、見られませんでした。コガタノゲンゴロウは、環境省レッドリストの絶滅危惧IA類(いなくなってしまうかもしれないおそれがあるランクの一番高いとされる生きもの)の一つになっていたのですが、最近では、いろいろな場所でおぼしめされているため、ランクは下がっていました。また、空を飛ぶことができるため、すみやすい場所に飛んでいって生活します。みやのじんビオトープは、去年と比べて、水がきたなくなったり、生活場所が大きく変化したりしていないため、いなくなった理由は、はっきりわかりませんが、また戻ってきてくれると思うので、しばらく様子を見てみようと思います。



ツチフキ



ミナミメダカ



オオヤマトンボのヤゴ



ウスイロシマゲンゴロウ



イトトンボ科のヤゴ



ミズカマキリ

## アカミミガメ・アメリカザリガニを か飼っている人は気を付けて！

「外来生物」って聞いたことありますか？外来生物とは、もともと日本にはいなかったけれど、人間が外国から持ち込こんで、日本でくらすようになった生きもののおこと、動物、植物、昆虫や魚だけでなく微生物も含まれます。私たちの生活に悪い影響をあたえる外来生物を、「外来生物法」という法律で「特定外来生物」に指定しています。みんながペットとして家で飼っている生物の中にも「特定外来生物」がいるかもしれません。アカミミガメとアメリカザリガニが、2023年6月1日より「条件付特定外来生物」に指定されます。「条件付」とは、通常のお特定外来生物で決められている禁止しているものごとのうち、家で飼うことは、当分の間は、認めてくれるというものです。



ポイント  
1

●家でペットとして飼っているアカミミガメ、アメリカザリガニは、そのまま飼うことができます。ただし、最後まで責任を持って飼い続けてください。



アカミミガメ



ポイント  
2

●アカミミガメ、アメリカザリガニを池や川などの野外に放したり、逃がしたりすることはぜったいにしないでください。



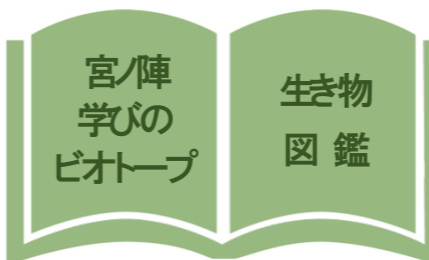
アメリカザリガニ

写真：環境省(かんきょうしょう)



ポイント  
3

●アカミミガメ、アメリカザリガニを飼い続けることができなくなった場合は、責任をもって飼うことができる人にわたしてください。



「みやのじんビオトープ」に生育する木や草、生息する魚、昆虫、鳥や季節の情報をお伝えします。



### モツゴ

(分布) 九州、四国、関東以西の本州

(生息場所) 河川の中・下流域、湖や池、農業水路、溜め池などが生息場所

(くらし) 雑食性で、浮遊性、付着性、底生性の小型の動植物を幅広く食べる。「モツゴ」という名前は脂っこいを意味する「モツ」と魚を意味する「ゴ」からついたと言われる。口が細く、上向きについているのが特徴。

出典：川と湖の魚①、保育社に追記